

流通BMSとは？

失敗しない導入ポイント

流通業のEDI受注業務を効率化

ユーザックシステム株式会社

Contents

- 流通BMSとは？
 - これまでのEDIを紐解く
 - 流通BMSの特長
 - 流通BMSのメリット（卸売業、製造業）
 - 失敗しない流通BMS導入のポイント
 - 導入事例＜EOS名人.NET＞
-
- (Appendix)2023～2025年イベント
 - (Appendix)これからのEDIシステム再構築
 - EOS名人 Information

流通BMSとは？



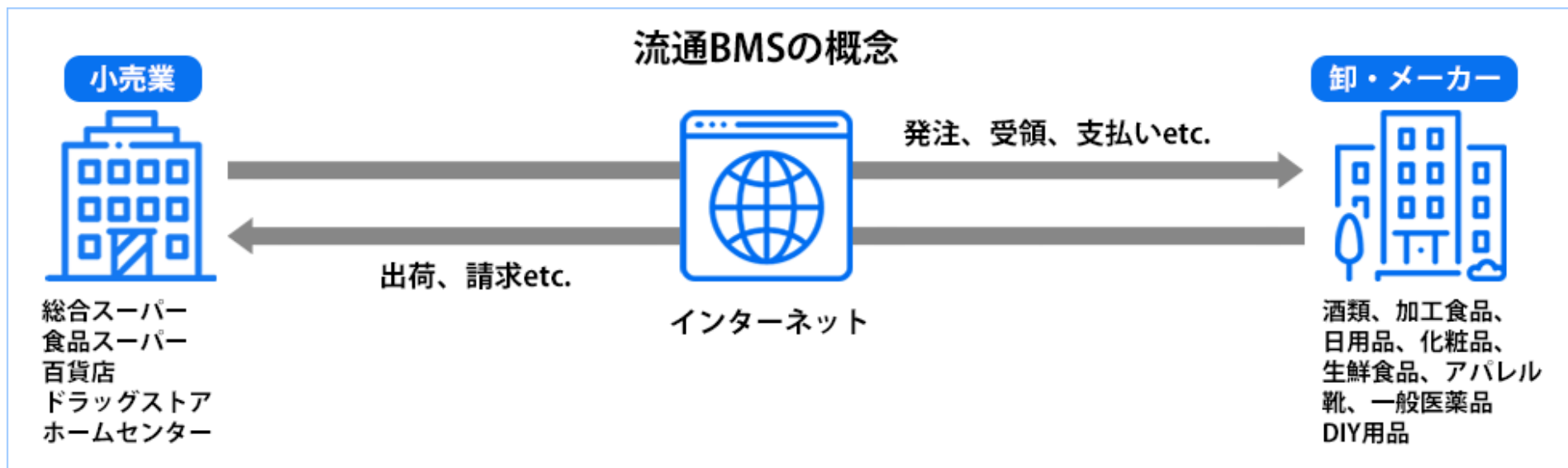
流通BMSとは？

流通ビジネスメッセージ標準®（流通BMS®）は、消費財流通業界で唯一の標準となることを目標に策定している、メッセージ（電子取引文書）と通信プロトコル/セキュリティに関するEDI標準仕様です。

※BMS・・・Business Message Standards

製（メーカー）・配（卸売）・販（小売）の流通三層間のビジネスプロセスをシームレスに接続することによる業務の効率化と高度化を目標とし作成されています。

流通BMSの普及によって、流通業界全体の業務効率化・コスト削減につながります。





これまでのEDIを紐解く

これまでのEDIを紐解く

(1)小売ごとの対応が必要

やり取りするメッセージ（受注や請求データのこと）の内容が小売企業毎にバラバラで、注文を受ける企業では各社ごとのシステム開発が必要でした。

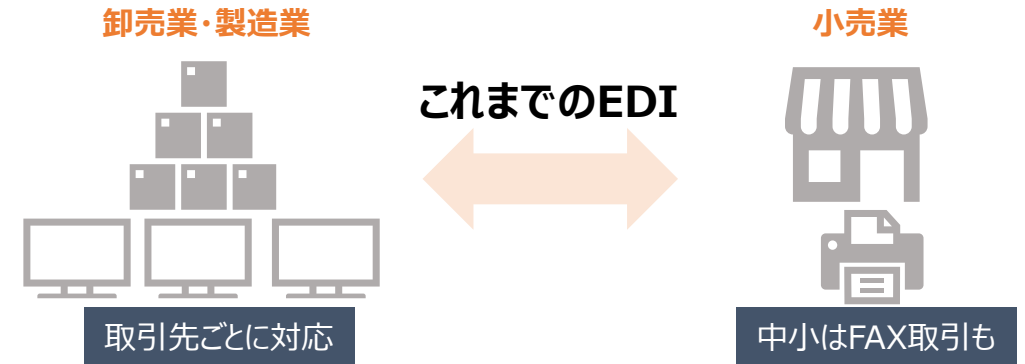
(2)モデムの入手が困難

電話回線を利用するために必要となるモデムが製造されなくなってきました。

(3)通信速度が遅い

データ量が増大した現在、通信速度が遅いため、出荷などの業務に支障をきたしていました。

さらに近年、WebEDIといわれるインターネットを利用した受発注システムが普及しています。これはブラウザ操作により受注データをダウンロードするため手作業を伴います。各社毎に操作方法が違うばかりか、自動化が困難です。



通信手段		フォーマット
電話、FAX		小売ごと、卸売ごと
EDI	JCA手順 (1980年に策定、電話回線)	1400種！
	全銀Basic	
	全銀TCP/IP	
	WebEDI (小売ごとに作成しているので内容がバラバラ)	
その他		

出典：日経MJ 店舗力向上支援プロジェクトより抜粋して作図

流通BMSの特長



標準化 = 業界全体の業務の効率化

流通BMSの最大の特長は、**対象とする業務プロセスを明確に整理したことで、メッセージ種及びデータ項目の定義がより明確になった**ことです。

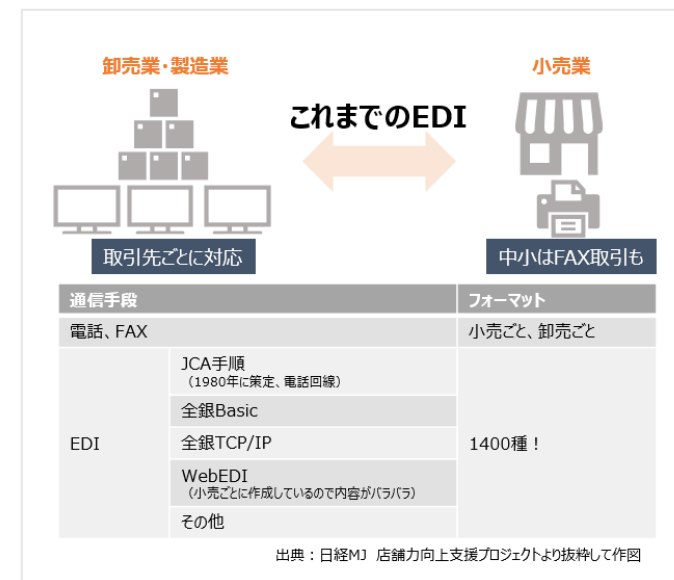
流通BMSは多くの業界・業態が参加して標準を策定しました。この策定は業界にとって大きな意味があります。

これにより、**小売とのEDIが統一**され、個別開発から脱却することができるからです。

通信はインターネットを利用するため、**通信速度が格段に向上**しました。

そして「**検品レス・伝票レス**」を実現し、業界全体の業務の効率化を目指しています。

経済産業省から事業を引き継ぎ、流通システム標準普及推進協議会（流通BMS協議会）を運営する財団法人流通システム開発センターは「**流通BMSは流通業界の共通インフラであり、より多くの企業に導入してもらいたい**」とし、維持・普及に取り組んでいます。



卸売業・製造業



PC1台で
全ての取引先に対応

あるべき姿
インターネットEDI

小売業



個別対応に追われていた時間を
接客時の付加価値向上に充てる

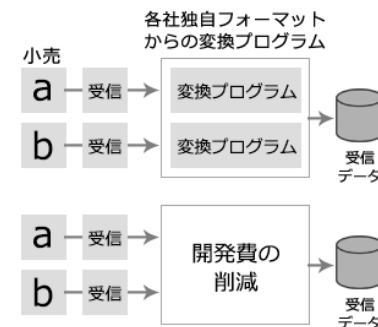
流通BMSのメリット（卸売業、製造業）



小売業から注文を受ける側（卸売業、製造業）のメリット

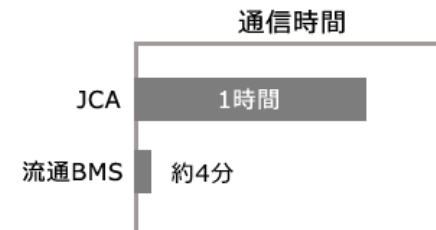
（メリット1）メッセージの統一化で開発コストが大幅に削減される

100社の取引先1社につき5年に1回プログラムを改修する場合、1回あたり10万円のコストがかかるとすると、 $10万円 \times 20本/年 = 200万円/年$ の維持コストが削減可能です。



（メリット2）通信時間が短縮され通信コストが削減される

流通BMSはJCA手順に比べて約93%の時間短縮が実証されています。
1日60分×3回線通信した場合（通話料金は市内通話料金[8.5円/3分]で計算）
 $8.5円/3分 \times 180分/3分 \times 20日 \times 12ヵ月 = 12万2400円/年$



通信コストの削減メリットは言うまでもなく、**1時間早く出荷業務に取りかかれる効果**は計り知れません。

（メリット3）伝票レスにより伝票発行時間とコストが削減される

複写式の伝票そのものは1枚当たり数円ですが、**一連の業務に関わる人件費**を考えると、それぞれの企業で1枚当たり数十円のコストが発生しているという試算もあります。

（伝票枚数 100枚/日の例） $50円 \times 100枚 \times 20日 \times 12ヵ月 = 120万円/年$



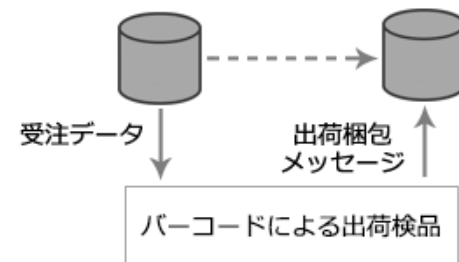
流通BMSのメリット（卸売業、製造業）



小売業から注文を受ける側（卸売業、製造業）のメリット

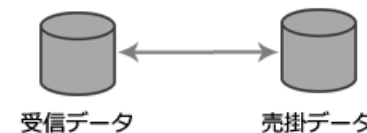
（メリット4）出荷業務の品質向上につながる

小売にとっての「検品レス」は、卸売業・製造業における出荷精度の向上を求めているのです。出荷業務の品質向上は、流通業界全体の業務効率化につながっているのです。



（メリット5）通信時間が短縮され通信コストが削減される

受領データは小売から日々受信しています。これまで月単位での売掛照合が、毎日チェックできるようになります。



（関連トピック）2024年問題*の影響

EDI（JCA手順など、レガシーEDI）の通信手段であるISDNの提供が2024年に終了。これにより小売業は流通BMSやWebEDIなどのインターネットEDIに取り組む必要があります。卸売業や製造業など、小売業からの注文を受ける企業は発注手順の変更に対応しなければなりません。

*NTT東日本と西日本がPSTN（Public Switched Telephone Network：加入電話及びINSネットを提供するネットワーク）を中継・交換機の維持限界、インターネットの普及による高速通信の需要を理由に2024年にISDNデジタル通信モード終了、2025年にIP網へ完全移行するという方針
PSTN・・・公衆電話網であり主に音声の通信用の回線サービス
ISDN・・・音声通信とデータ通信を統合した回線サービス（EDIに影響）

JCA手順利用 小売業の3つの選択

方法	小売側構築コスト	小売側ホスト変更
流通BMS	高い (通信+ファイル)	× 多い
WebEDI	△ (Webサイト)	○ 少ない
流通BMS 手順 + JCAファイル	△ (通信のみ)	○ 少ない

失敗しない流通BMS導入のポイント



「何を検討すればよいかわからない」流通BMS導入のチェックポイントとは？

小売業のインターネットEDIへの対応に合わせて、受注する側としてもビジネスを止めないよう、2024年問題へ備えるべきです。とはいえ「いざシステムを導入しようとする、何をどのように検討すればよいかわからない」となるのは当然です。流通BMSをはじめとするインターネットEDIの取り組みをスムーズに開始できるパッケージソフトについて紹介します。

流通BMSに対応できるソフトウェアパッケージの種類

流通BMSに対応できるソフトウェアは大きく3つに分けることができ、それぞれにできること・できないことがあります。

	通信ツール	EDI業務アプリ	出荷業務	基幹システム連携
特定小売専用ソフトウェア	○	その小売業とのEDIが効率化できる	その小売業への出荷業務が効率化できる	考慮されていない
通信ソフトウェア (ACMS、Biwareなど)	○	×	×	考慮されていないことが多い
EDI汎用ソフトウェア (EOS名人、EDI-Station、WinWin-EDIなど)	○	様々な小売業とのEDIが効率化できる	様々な小売業への出荷業務が効率化できる	○

特定の小売専用開発されたパッケージソフトは、その小売との取引のみが完結できますが、基幹システム等の外部システムとの連携は考慮されていません。

通信ソフトウェアでは、受注・出荷などの業務機能は提供されていないことがほとんどです。

その点、EDI汎用ソフトウェアは、EDI業務を効率化するために考えられていますから、受注から出荷までの業務が効率化できるのはもちろんのこと、基幹システムとの連携もシームレスに行えます。

EOS名人は、EDI汎用ソフトウェアに分類され、流通BMSだけでなく、レガシーEDIにも対応しています。

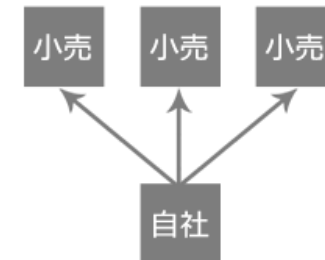


失敗しない流通BMS導入のポイント

ビジネスの成長—取引する小売の増加に対応する

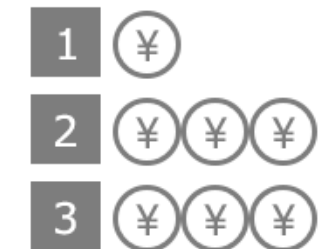
(1) 小売の追加に対応しやすいか ~小売ごとに異なる対応が必要~

同じメッセージ(たとえば受注データ)でも小売により利用する項目が異なる場合があります。基幹システムとの連携も項目ごとにデータ変換するため、1社対応したからといって、そのまま他社の流通BMSに対応できるとは限りません。流通BMSといえども小売ごとに対応するという考えが必要です。



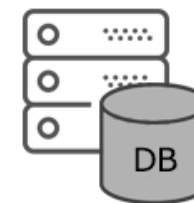
(2) 小売の追加のコストは適切か、または自社開発可能か ~2社目以降の追加コストを把握~

特定小売専用ソフトは2社目以降は対応できないものがあります。また追加できる場合でもそのコストはいくらかかるか、自社で簡単に開発できるか、あらかじめ把握しておきましょう。



(3) 将来、拡張性のあるシステム構成か ~データ量に応じた機器を選定~

1回で受信するデータ量に応じてシステムを選定する必要があります。データ量が多い場合はサーバーOSでの運用が望ましいと言えます。またバックアップシステムも検討しておきましょう。



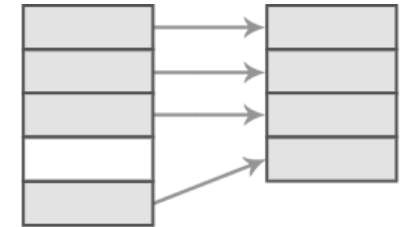
失敗しない流通BMS導入のポイント



開発効率とコストコントロール

(1) データマッピング機能は使いやすいか ～EDIの追加は自社でコストをかけずに開発～

パッケージソフトの選定で確認したいのが**データマッピング機能の使いやすさ**です。新たな小売の追加や基幹システムと連携する際には必須です。特にJCA手順の変換にも利用する場合は、その使いやすさが開発の生産性に大きく影響します。



データマッピング

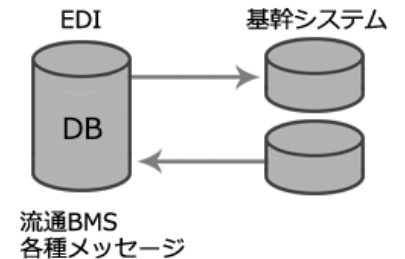
(2) 基幹システムとの連携は容易か ～基幹システムと柔軟に連携できるパッケージを選定～

パッケージソフトを導入してから気づくのが**基幹システムとの連携の必要性**です。特定小売専用ソフトは基幹システムとの連携が難しい場合もある（P8 表参照）ので注意が必要です。



(3) EDIシステムに各種メッセージを保管できるか ～EDIシステム側にデータベースを持つ～

小売により利用するメッセージ種別は異なりますが、それらをどこで保管するのが良いのでしょうか？
流通BMSはJCA手順に比べ受信データの項目数をはるかに多くなっています。極力、**基幹システムには手を加えずに、EDIパッケージ内にデータベースとして保持**することをおすすめします。



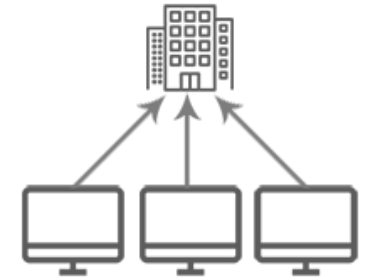
失敗しない流通BMS導入のポイント



EDI業務を柔軟に運用する

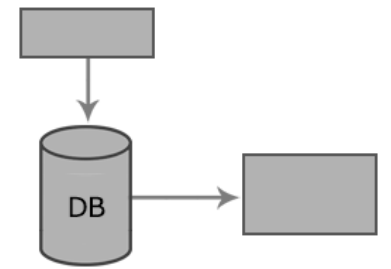
(1) 拠点や複数端末からの処理は可能か ~複数の出荷拠点がある際、データ操作は分散する~

営業拠点や物流拠点から分散して処理する場合や、同一拠点で複数端末からデータをメンテナンスする必要がある場合は、複数の端末で運用が可能なシステムが望ましいと言えます。



(2) データの新規、訂正入力や帳票出力 ~受注データの新規作成や訂正はEDIで対応~

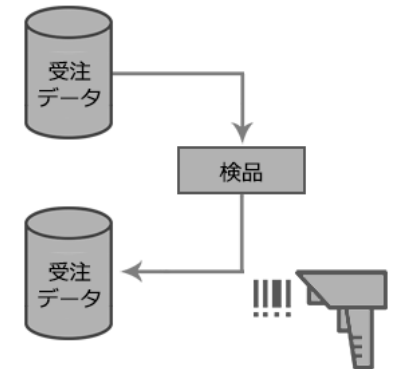
本来すべての受注はオンライン化されるものですが、どうしても緊急の受注や訂正が発生します。これまでは基幹システムで対応できましたが、**流通BMSの膨大なメッセージを保持しない限り出荷や請求の送信データが作れません**。また基幹システムで帳票発行している企業も、緊急対応時にはEDIシステムでも発行できる体制が求められます。



センターに納品する

(1) 出荷検品に対応しているか ~出荷梱包メッセージを作成しよう~

流通BMSは伝票レス、検品レスを実現するため、特に小売の物流センターに納品する場合は、正確な出荷情報の送信が求められます。出荷梱包ナンバーと商品のヒモ付きデータを作成するための検品システム構築が、卸・メーカーで必要となります。



失敗しない流通BMS導入のポイント



EDIシステムの再構築

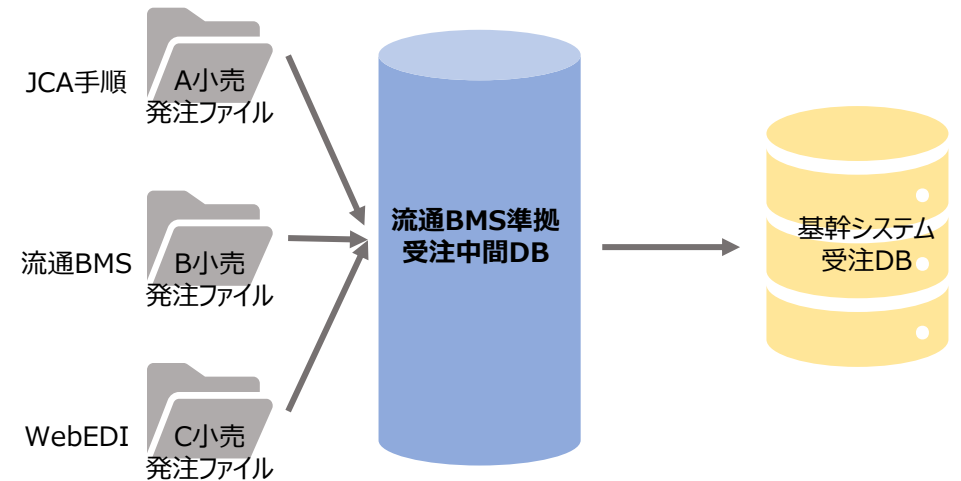
(1) JCA、全銀、全銀TCP/IP手順も対応しているか ~EDIを汎用機、オフコンから移行~

これまで構築してきたレガシーEDIの資産をどうするかを検討しましょう。JCAや全銀、全銀TCP/IP手順に対応している場合のEDIシステム再構築は、流通BMSとレガシーEDIを統合する必要があります。

(コラム) 通信手段に関係なく、EDI業務が同じであればまとめる

流通BMSに準拠した中間DBを設定する理由は、流通業界のあらゆる業務や取引の項目が網羅されているからです。どんな通信手順で入ってきたとしても、同じ業務であればいったん中間DBでまとめて、基幹システムには1本で連携します。そうすることにより、各小売ごとで作っていた変換プログラムは不要になり、将来、基幹システムをリプレイスするときになっても、EDIシステムの再構築は最小限の工数ですむことになります。

基幹システムとのインターフェースは「1業務1インターフェース」
受注／請求／支払／出荷／受領／返品業務 等



流通BMS対応：EOS名人導入事例



<株式会社ヤクルト>

流通BMS対応を機にEDIを再構築

汎用機やUNIXで構築してきたEDIは、約250社500メッセージ。流通BMS対応を機にJCA手順も全面的にダウンサイジングし、導入、維持コストの大幅な削減に成功しました。

<https://www.usknet.com/jirei/yakult/>



<日本農産工業株式会社>

基幹システムの再構築を機にEOSも刷新

EOS端末の老朽化や、新規EOS先追加時のコストや納期、システムの分散化による運用負荷の増大などが課題となり、EDIシステムを刷新しました。

<https://www.usknet.com/jirei/nosan/>



流通BMS対応：EOS名人導入事例

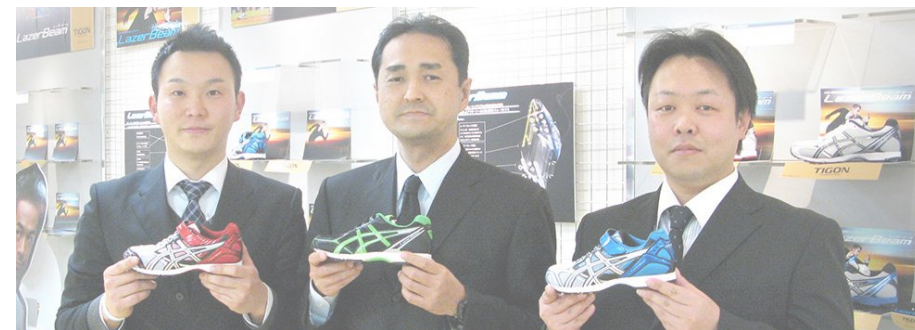


＜アシックス商事株式会社＞

事業継続計画（BCP）を重視しつつ流通BMSに対応

スーパー イズミとの流通BMSに対応することになり、一時はEDIのアウトソーシングを検討。しかし、将来を見据え、自社開発を基本としたパッケージシステムの導入を決定しました。

<https://www.usknet.com/jirei/asics/>



＜株式会社ちふれ化粧品＞

流通BMSへの対応を機に、EDIシステムを再構築

ちふれ化粧品様の基幹システムはIBMのAS/400（当時）。既存システムでは流通BMS対応が困難だったため、新たに流通BMS用システムを構築しました。パッケージの選択条件はデータベース機能の有無でした。

<https://www.usknet.com/jirei/chifure/>

流通BMS対応：EOS名人導入事例



＜恩地食品株式会社＞

シジシージャパンとの流通BMSに対応

関西CGCから流通BMSへの対応要請が来た恩地食品様。それにはオフコンでは対応不可能と判断。そこで新たに流通BMS用EDIをクライアントPCで構築しました。

<https://www.usknet.com/jirei/onchi/>



＜扇町運送株式会社＞

JCA手順や流通BMSによるEDIへの対応を実現

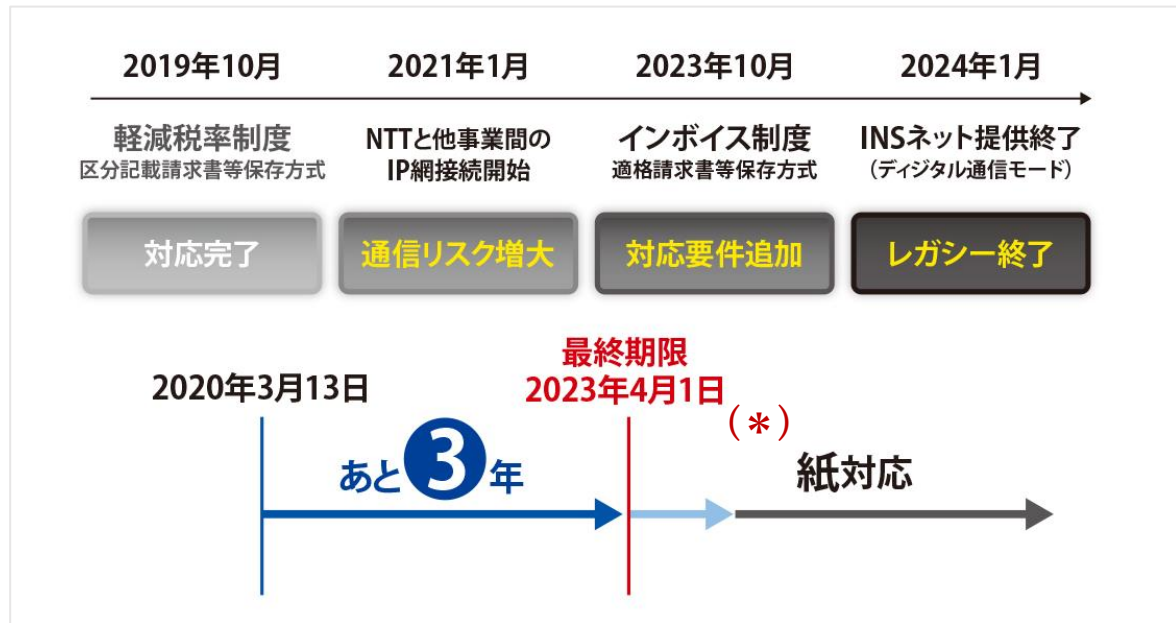
近畿・中四国エリアへの物流サービスを得意とする扇町運送様は、新たに量販店向けの出荷業務を受託したことから、JCA手順や流通BMSによるEDIへの対応が必要になりました。

<https://www.usknet.com/jirei/ogimachi/>

(Appendix) 2023年～2025年イベント



DX・「2025年の崖」直前、2023年・2024年に起こること



(図) 2020年4月 日経クロステックアクティブ掲載
ユーザックシステムソリューションフェア講演資料

(*) 最終期限2023年4月1日とは、遅くともこの期日までに取引先が流通BMSに対応しなければ、インボイス制度施行以降に、紙で対応しなければならない可能性を指摘したもの。

流通業界のEDIにインパクトをもたらすイベントが、2023年と2024年に控えています。

2023年10月に施行される「インボイス制度」

インボイスとは、商品の売り手が買い手に対して発行する、税率ごとの正しい税額書類です。制度開始以降、この添付が必要になりますが、レガシーEDIの仕組みで対応するとなると、翌年の**2024年1月**には利用できなくなります。最悪、紙のやり取りに戻さざるを得なくなります。

2024年1月は、PSTN網（左図：INSネット）の提供が終了するタイミングです。

2025年の崖というものの、2023年にレガシーEDIシステムは終焉を迎えます。

(Appendix) これからのEDIシステム再構築



ビジネスを止めてしまうか、加速させるか？

EDI システムは自社での運用だけ考えればよいのではなく、接続する取引先企業の対応についても考慮しなければなりません。

特に小売業とEDI取引をしている企業は、相手先小売業が2024 年問題に対してどのような対応をするのかを見極めてから、自社のEDIシステムの方針を立てようと考えているのではないのでしょうか。

しかし、PSTN 網廃止間際になると、基幹システムの更新もあわせて IT技術者の枯渇も大いに予想されます。

EDIシステムは通信のテストも**両社で調整して行わなければならない**、どうしてもスケジュールがタイトになりがちです。

特に大手小売店と EDI 接続する場合、接続対象となる企業が多く、テストから承認、本番開始まで非常に時間がかかります。

数年前に大手 GMS がレガシーEDI から流通 BMS への完全移行を実行した際、接続テストの順番待ちが長くなり、切替日程に間に合わなかった企業があった、という事実もあります。

それを教訓として各企業は早急に EDI システムの再構築を進めていくべきです。

小売側企業の対応を待たなくても、自社IT戦略を策定し、**DXに備えたEDI システムを構築**すれば対応は可能なのです。



EOS名人 Information



EOS名人.NET Ver7.0 新発売
流通BMS・レガシー対応 EDIシステム

導入実績 **2,500本**

みんなつながる 流通BMS

EOS名人は流通システム普及推進協議会が定める流通BMS（基本形V1.3JX手順クライアント）の技術仕様適合宣言した製品です。

JCA手順などのレガシーEDIから流通BMSまで取引先からのEDIの要請に迅速かつローコストで対応するEDIソリューションです。

<https://www.usknet.com/services/eos/>

こんな企業に最適

- 汎用機、オフコンのEDIシステムをオープン系に移行したい
- レガシーEDI、WebEDI、流通BMSを統合したい
- 小売ごとに発生する仕様変更や追加にコストを抑えて対応したい

累計出荷本数（2021年8月現在）

2,841本

全農 パルテイズ 株式会社

信州ハム

OAKLEY

IKEHIKO
SINCE 1888

ちふれ

SEIKO

導入業種TOP5

1. 製造（日雑、生活用品）
2. 卸（食品）
3. 製造（その他）
4. 製造（食品）
5. 通信、情報サービス

Thank you



本資料についてのお問合せは、
ユーザックシステムマーケティング本部 meijin@usknet.co.jp へお気軽にどうぞ

関連する EDIシステムコンテンツ も、どうぞご覧ください。

➤ DX・2025年の崖～今から始めるEDIシステム再構築
<https://www.usknet.com/key-to-success/dx-2025edi>

➤ 流通業のDXに影響するEDI受注業務の再構築とは
<https://www.usknet.com/key-to-success/2023-2025edi>

ユーザックシステム株式会社

東京本社 | 〒104-0033
東京都中央区日本橋箱崎町4-3 国際箱崎ビル4F
TEL.03-6661-1210 FAX.03-5643-0909

大阪本社 | 〒541-0048
大阪市中央区瓦町1-6-10 JPビル3F
TEL.06-6228-1383 FAX.06-6228-1380

<https://www.usknet.com> meijin@usknet.co.jp